



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

子育て支援

金沢市泉野福祉健康センター
萱原 昌子

金沢市の乳幼児健診に携わるようになって10年近くになる。

御承知の通り乳幼児健診は疾病や発達の遅れなどの異常の早期発見と対応の機会だが、それに加えて育児支援の側面も持っている。母親によっては問診票の「子育てで気になること、相談したいこと」の欄に細かい字でびっしりと書き込んでくることもあるのだ。母親の性格にもよるのだろうが、私の個人的な印象ではこれは第1子の3か月児健診で圧倒的に多く見られる。ひとは誰でも未経験のことには不安がつきものだから初めての育児に戸惑うのは当然である。しかし、これだけ気になることがたくさんあると日々の子育てを楽しむ余裕などないだろう。もともと育児不安はささいなことから出現することが多く、目先のちょっとした不安を解決、納得させて、育児を楽しみに変えていくことが対応の基本である。したがって健診では時間の許す限り母親の話をよく聞き、不安に耳を傾け、小さな心配事にも丁寧に対応していくように心がけている。

また、健診に来所するほとんどの親たちは「順調ですね」という言葉を期待しているため、問題を指摘されて違和感や不信感を抱く場合も少なからずある。そのような時でもできるだけ親の気持ちに寄り添う形で言葉を選びながら説明するようにしている。私の力量不足でうまくいかないことも多いのだが。

というのも、実は何を隠そう私自身が育児不安を抱えた母親だったからだ。自分の子育てが終盤になった今だからこそ過去を冷静に振り返ることができるようになったのだが、元々私は〇〇でなければならぬという考え方をするタイプだったのだろう。しかし育児はそんなやり方でうまくいくはずがない。案の定、個性的な第2子の子育てで完全に行き詰まってしまった。子どものできないことばかりに目がいき、何とかしなければと焦ってつらい時期があった。その子の1歳6か月児健診でSOSを出したことをきっかけに、支援につながった。支えになってくださった方たちは皆、空回りして八方塞がりになっている私を決して責めることなく、私の気持ちに辛抱強く寄り添ってくださった。そのおかげで少しずつ子どもをありのままに受け入れ、子どもの後からついていこうと思えるようになってきたのである。子育て中、私は家庭の事情で専業主婦だったが、この時の経験から、もし小児科医として復帰することがあったなら何らかの形で子育て支援に関わる仕事がしたいと考えるようになった。縁あって、乳幼児健診に携わらせていただけたので、本当に微力ではあるが育児に悩む母親の力になればと思っている。

さて、このたび金沢市では安心して子どもを産み、健やかに育てるための家庭、地域の環境づくりを目指して「かなざわ育みネットワーク」を立ち上げた。地域・福祉・医療・保健がしっかり連携し、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援を進めていこうとするものである。このネットワークがうまく稼働することによって母親の育児不安が解消され、安心して子育てを楽しむことができれば、きっと次子を望む親が増えるだろう。少子化問題にも明るい兆しがみえてくることを期待したい。